

第2回

循環型包装コース

講師 住本技術士事務所 所長 住本 充弘 氏

■ 開催日：令和6年11月14日(木) 13:00～17:00

■ 会場：Zoomによるオンラインセミナー

■ 主催： 公益社団法人日本包装技術協会

受講のお勧め

環境包装について、今2つの課題がある。①従来からの延長線上での環境対応と②EUの進める循環型パッケージ対応及び循環型プラスチックの再生再利用である。日本政府も循環型経済の実現に向けて、製造業に再生プラスチックの年間使用目標量と使用実績量の報告義務化を求める方針であり、早ければ2025年の通常国会で資源有効利用促進法の改正を目指す。

このような国内外の動きの中で、包装に関しては、日本独自の道はなく世界の包装基準に準じた包装を実践することが必要であるが、基本概念が先行し、具体的な再生技術及び設備については後追いの状態である。EU市場では再生プラスチックの配合は義務化であり、国内も義務化の方向に進む。本セミナーでは、国内外における循環型パッケージ、特に循環型ポリマー利用とさらに紙利用軟包装に的を絞り、どのように対応しているかの現状、バリア性対応・包装仕様の考え方・アルミ箔対応・脱インク及び剥離技術、recyclableなどについて国内外の事例で説明する。最後にPPWRが理解できたかの確認のために現在のラミネート仕様でEU市場へ輸出できるか否か、具体的な製品の包装仕様で設計変更も含め、考え方を説明します。これからの包装の進む方向を予測し自社の包装に実務ベースで活用するために受講を勧めます。

開催要領

- 名称：第2回循環型包装コース
- 日時：令和6年11月14日(木) 13時～17時
- 開催方法：Zoomによるオンラインセミナー
- 定員：300名

参加費

- 会 員：9,900円(消費税・テキスト代込み)
- 一 般：22,000円(消費税・テキスト代込み)

第2回循環型包装コースの参加申し込みについて

- 本催しは「Zoomウェビナー」を利用したのオンライン配信となります。お申し込みは当会ホームページの循環型包装セミナー参加申込ページよりご登録いただくようお願いいたします。

当会ホームページURL：<https://www.jpi.or.jp/>

- 参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)
- 申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。
- 申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人のご参加となります。

※同じ名前の方のご参加を発見した場合は、ご連絡した後に参加登録の削除をする場合があります。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したのオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください

プログラム

時間	講義内容	
13:00 }	1. EUのPPWRの理解 PPWRは世界の包装の考え方に大きな影響を与える。 1.1 主な内容 1.2 再生プラスチック配合量 1.3 主材料が70%以上の仕様 1.4 Recyclable 1.5 包装の最小化 1.6 グリーンウォッシュ 1.7 PCR,PIRの利用 1.8 EFSA対応 1.9 欧州の既存の回収streamと最新事例 1.10 日本の対応方法は 2. EUのrecyclable と第三者認証 EU市場ではrecycleの義務化と世界の追従 2.1 プラスチック業界の自主基準 2.2 ECが検討中のDfR (Design for Recyclability) 2.3 WPO, Packaging Design for Recycling Guide 2.3 多層フィルムのrecycle性 2.4 日本の対応は 3. EU2022/1616の理解 食品接触用のrecycled plasticsの規定 4. プラスチックのリサイクル技術と課題 全てのリサイクル技術は共存関係 4.1 世界のリサイクル技術 4.2 メカニカルリサイクル NEXTLOOPPIによるr PPの製造 4.3 ケミカルリサイクル 各種ケミカルリサイクル マスバランスの利用 4.4 バイオリサイクル フランスのPETリサイクル 4.5 日本の包装の対応は 5. 回収及び選別技術 世界が注力する分野 5.1 Recycleye社 5.2 透明バーコード、Digimarc利用 5.3 Curve Code利用 5.4 フランスの事例 5.5 欧州の最新の選別設備	7.2 Saperatec社 7.3 国内事例 8. メカニカルリサイクルのペレットの脱臭 アップサイクリングに向け、脱インクと脱臭処理が必要 8.1 押し出し技術の展開 8.2 超臨界技術による脱臭 9. バリア包装の考え方 包装は内容物の品質保持のために適正なバリア性が必要 9.1 透明ハイバリアの蒸着技術 9.2 EVOHの利用法 9.3 Renewable Materialsの利用 9.3 その他の材料の利用 9.4 成形品への蒸着 10. 紙仕様の事例 Renewable Material利用、包装の腰 (stiffness) の面で有効利用 10.1 透明蒸着技術の展開 10.2 Renewable Materialsの利用 10.3 ラミネートと剥離性の課題
14:20		10分休憩
14:30 }	6. メカニカルリサイクルと脱インキ 実用化事例の説明 6.1 スペインの事例 6.2 ブラジルの事例 6.3 国内の事例 6.4 脱インキ用プライマー 6.5 剥離容易な接着剤 7. メカニカルリサイクル用のラミネート品の剥離技術 欧州で実用化されている事例と関連技術 7.1 APK社	11:00 }
15:50		11:40 }
	10分休憩	16:00 }
		16:40 }
		16:40 }
		17:00

講師紹介

住本技術士事務所 所長 **住本 充弘 氏** 技術士(経営工学)、包装管理士
 JPI「包装技術便覧」、「包装技術」をはじめ、業界誌、講演等多数

個人情報の取扱いについて

個人情報は「第2回循環型包装コース」の事業実施に関わる資料の作成、並びに当会が主催する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。参加申込によりご提供頂いた個人情報は法令に基づく場合などを除き、第三者に開示提供する事は ありません。

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会 業務本部 教育・研修部 担当:佐藤
 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
 TEL:03-3543-1189 FAX:03-3543-8970 e-mail:satou@jpi.or.jp